

館高東京同窓会会報

第25号

平成23年2月

発行人 大隈 清道

〒273-0027 千葉県船橋市海神西1-1193-1-1006



元気で～すー会員便り



柿沼 七郎 昭和23年3月卒（邑楽郡明和町旧千江田村江口出身）東京都江戸川区在住

仕事 元三井住友銀行（旧平和相互銀行）勤務

趣味 山登り・パステル画・写真

若い頃は夏山の西穂・奥穂高岳をはじめ日本アルプスは殆ど登る、今は丘程度の山を年数回登るのみ。冬山は山の神が我々を敬遠するので冬ごもりして、談話室で玉杯を傾けることに相成ります。



小西 正 昭和28年3月卒（邑楽郡千代田町旧永楽村赤岩出身）神奈川県鎌倉市在住

仕事 元高砂香料工業(株)勤務

趣味 囲碁、ゴルフ、釣り、フレーバーコンサルタント（趣味兼仕事）

現在、フレーバー関係で毎月中国に出掛けたり、町内の老人会役員や近所の老人介護施設においてボランティアで囲碁のお相手を務めたりしています。



太田 徹 昭和30年3月卒（館林市旧館林町肴町出身）神奈川県大和市在住

仕事 元日本鋼管（株）、新潟工業短期大学名誉教授

趣味 ウォーキング、ばら作り

PCでプログラミングしたりしているが、進捗は遅い。市の国際化協会のボランティアとして英訳を行っている。会社のOBの仲間と鎌倉を歩いたりして楽しんでいる。



岡村 昌二 昭和31年3月卒（館林市旧三野谷村野辺出身）神奈川県川崎市在住

仕事 元日本放送協会 職員

趣味 美術館巡り 時々 海外旅行<スケッチして絵手紙>

単身赴任時代 罪滅ぼしに女房と京都・奈良を旅行しました。それも飽きて、海外旅行をするようになりました。今は、何時役立つかわからない語学のレッスンに精をだしています。



杉田 利雄 昭和46年3月卒（邑楽郡邑楽町旧長柄村赤堀出身）東京都新宿区在住

仕事 (株)エム・エム・プラン代表取締役（新宿区四谷）

趣味 映画鑑賞

経営コンサルタントの仕事をしていて、昨年是中国・上海に上海杉永商貿有限公司（独資企業）を設立、董事長・総経理に就任。年8回ほど海外に行きます。昨年は、インド・デリー、ベトナム・ホーチミン、中国・上海、珠海、西安、敦煌、香港、マカオ、シンガポールなどです。

分科会活動の活性化を目指す



会長 大隈 清道

(昭和 29 年卒)

今期も会報を発刊する運びとなりました。このところ僅かずつですが会報の内容を充実させることが可能になってきました。今後も読み応えのある会報の編纂に向けて一層の努力を続けて行く所存でおります。皆様の積極的な御寄稿をお待ちしております。

東京同窓会では、これまで会の活性化に関しいろいろなアイデアが提案されて来ました。今期は、その中から趣味・スポーツ等の分科会活動を発足させたいと考えております。とはいえ、いきなり多分野にわたるいくつもの分科会を一気に立ち上げることは不可能です。活動の場、参加希望者数、指導者、活動費などなど多面的な検討を加え、持続可能なものがひとつふたつ始動できれば、というところです。更に今後は若い世代向けの分科会を増やし、内容を充実してゆくよう努力して行きます。ぜひ分科会にも皆様ふるって御参加下さい。

東京同窓会は首都圏に在住・勤務あるいは就学する館林高校の卒業生を構成員として組織される会のはずですが、現在、首都圏の大学や専門学校等に就学中の会員は皆無というのが実態です。これをそのままにして会の若返りを唱えても、所謂、空念仏のそしりを免れ得ないところでしょう。そこでこれからは、若い卒業生への働きかけに特に力を入れて行きたいと考えます。その嚆矢として平成 23 年 3 月に卒業される皆様に本会報を配布し、先ず東京同窓会の存在を認識していただくことにしました。

新卒の皆様、この先首都圏に進学、就職、居住される折は、躊躇わず館林高校東京同窓会にアクセスして下さいようお願いします。皆様に楽しんでいただける場を着々としつらえ、充実してゆくよう努力を続けております。

第29回 総会報告

去る平成22年10月23日(土)、標記会員総会が皇居北の丸近い都心のホテルグランドパレスにおいて開催されました。

総会は、①議題の審議、②講演会、③懇親会の3部構成で行われました。

議題審議では、出席した会員諸氏のご協力により予定された議案は全て承認可決された。

講演会は、館林市長の安楽岡一雄氏にお願いしました。安楽岡市長は館高昭和41年卒で、館林市第五代目の市長で初の館高OBの市長です。就任以来4年となり平成23年4月には改選期を迎えますが、市長1期目で実行してきた施策の数々や将来の館林をどのような街にしていこうとしているか、について熱く語っていただきました。

懇親会では岩瀬弥市本校同窓会長から、館林高校が平成23年に創立90周年を迎えることから記念事業を計画、このための実行委員会が組織され活動を始めているとの報告がありました。また、総会の席上、出席会員から提案された会の現状認識・活性化の発言について、活発な意

見交換が行われるなど、和やかな中にも充実した会となりました。

ご来賓の皆様及び会員諸兄には深甚なる敬意を表します。

1. 参加者 39名

(イ) ご来賓 10名 猪熊仁校長、岩瀬弥市同窓会長、同窓会各支部長、群馬県人会連合会会長、他校東京同窓会関係者の方々です。

(ロ) 会員 29名 会員は、長年出席戴いてきた先輩が高齢化に伴い欠席が目立ちましたが、新たに若い年代の方の参加が見られました。

2. 事業報告、会計報告並びに決算は総会案内の通り、予算・事業は下表のとおり。

3. その他

組織の活性化について従来から提案されていた学年別、サークル別、地域別などの組織化・活性化に加え、ゴルフ以外の趣味の会の立ち上げによる活性化を目指すことが再度確認された。

平成23年度(第30期) 予算書

収入の部

項目	金額
前期繰越金	489,791
年会費収入	450,000
総会費収入	240,000
懇親会収入	300,000
広告料収入	30,000
雑収入	250,209
合計	1,760,000

支出の部

項目	金額
総会運営費	350,000
懇親会運営費	250,000
印刷代	250,000
通信費	350,000
交流費	150,000
雑費	100,000
合計	1,760,000
次期繰越金	

平成23年度(第30期) 事業計画

年月日	事業
H22.10.23	第29回定時総会
10	高崎高校東京同窓会総会交流
11.08	第30回懇親ゴルフ会
11.13	本校同窓会総会
12	三役・事務局会議
H23.01	上毛クラブ総会交流
2月	三役・事務局会議
3月	第25号会報発行
4月	理事会・観桜会
4月	渋川女子高東京同窓会交流
5.11	本校同窓会ゴルフ会
6月	前橋高校京浜同窓会総会交流
6月	三役・事務局会議
8月	理事会・納涼懇親会
9月	三役・事務局会議

注) 群馬県人会、本校同窓会支部との交流及び館女その他他校同窓会との交流は随時行う予定です。

館林の今、これから



館林市長 安楽岡 一雄

(昭和 41 年卒)

平成 19 年 4 月、行財政改革、地域経済の活性化、地域医療・福祉の充実、教育の充実、市民とともに歩む、の五項目のマニフェストを掲げて館林市長選挙に臨み、館林市五代目にして初の館高出身市長が誕生。就任 4 年目を迎え、これまで取り組んできた館林の今と将来を語る。

ふるさと館林を離れ、首都圏で大活躍をされている先輩の前で話をするのは気恥ずかしい気もありますが機会をいただき感謝しています。

市長に就任して 4 年目です。来年の春には再選ということで試練に晒されることとなりますが、この 4 年の間に私が取り組んできたことについてお話しいたします。

市長になって初めてその背負うものの大きいことを再認識しています。群馬県議会議員の時は 56 人の中の一人として、56 分の一の責任を果たせばよいということでしたが、市長は一人しかおりません。市として取り組む行政すべてに責任を果たさなければならぬ。その重さが全く異なります。県会議員の時と市長になってからの意識はずいぶん変わったなと今感じています。

特に、時代が大きな変革の時代になっています。政権も民主党に代わりました。それと地方行政どこでも共通していますのは財政の問題です。特にこの間日本経済が長期にわたる不況から脱せずどんどん悪くなっているのが現実で、社会・経済の環境が大きく変わってきています。特に人口減少社会になってきていること、考えていた以上に深刻なテンポで市民の高齢化が進んでいる。

こうしたことが、行政のあらゆる分野の手かせ足かせになっているのが現実です。

税金がどんどん減っていく中であって高齢化社会の進展は、あらゆる面で従来通りの行政サービスを確保していくことを難しくしています。市民の皆さんの要望は多岐にわたっていますが、住民の皆さんの高い要望に応え、きめ細かなサービスを進めていくには財源であり、人材であり、必要なものを必要なものとして揃えておかなければいけない。

こうした中で、私は市長選挙に臨むにあたって、①行財政改革、②地域経済の活性化、③地域医療・福祉の充実、④教育の充実、⑤市民とともに歩む、の 5 点を訴え、市長に就任しました。この中身についてお話してご理解いただければと存じます。

1. 行財政改革の推進

当たり前のことですが、これからの地方行政は右肩上がりの時代と違いまして、無駄を排除して効率の良い行政を行っていかないと持たないということでもあります。

・職員減らし民間委託へ

その中で最初に手掛けたのが役所の人員削減です。目標を立ててやっています。以

前 840 人ほどだった職員の数は現在 650 人位になっています。ただし、正規の職員は減っていますが嘱託職員は増えています。同じ仕事をやっているのに正規職員と嘱託職員の間には給与ギャップがあるため、この問題の解消が課題として残っています。

今後、民主党が公務員改革を進めていくという中で労働基本権が付与されるという方向にあるので、安直に正規職員から嘱託職員に変えるというのはよくないのかとは感じていますが、いずれにしても人件費の負担を少なくすることに努めています。

21 年度は団塊の世代が 46 人退職しました。退職金が 10 億 6 千万円、平均で 2,600 万円位を支払っています。22 年度の退職者は 25 人くらいに減りますが、23 年度はまた増えます。この間の退職金が 20 億円位必要になっています。積立金もありますが、少し借金をして標準化を図って返済をしていかなければならないと考えています。コスト削減と人員削減を同時に進めています。

コスト削減については、これまで役所でやっていた仕事を民間に委託する。一つはごみ問題です。ごみ処理は一市だけでなく周辺の町と一緒にやっていく、館林のごみ処理施設はすでに耐用年数を過ぎております。平成 28 年位には新しいごみ処理施設を作るわけですが、館林市、板倉町、明和町の 1 市 2 町で広域的に行うことでスタートしています。

老人ホームや給食センターなどもこれまでは市が運営していたのですが、民間に委託していきます。老人ホームは 23 年春には民間委託になります。さらに、公用車のリースを進めるなど、コスト削減にはあらゆる面においてあの手この手で進めています、致し方ないことと思います。

いずれにしても、行財政改革は地方自治体にとって避けて通れない課題です。

2. 地域経済の活性化

館林の将来に向けた財源をしっかりと確保したいということをも市長就任以来考えてきております。今日の厳しい経済情勢の中にあつて、特にリーマンショック以来、周辺自治体の財源の落ち込みは目を覆いたくなるほどです。

・進む企業誘致

館林の場合は幸いなことに食品関係の企業

が多い。館林も落ち込んでいますが、食品関係企業がずいぶん助けてくれています。

今回、東洋水産が東南アジア最大規模の即席麺とスープの工場を市内の赤羽地区に建設してくれました。ここでの税収が 23 年度から見込める、また大新田地域にあるカルピスは相模原市にあった工場を移設、大規模な投資をしていただいています。さらにミツカン酢（大島地区東部工業団地）、ブルドックソース（大新田地域）、キャンバック、日清フーズ、正田醤油、みんな食品関係の企業で内容がよい企業ばかりです。

館林の独自市税収入は 115 億円位ですが落ち込みは 1.8%程度に収まっています。他の町は 7%とか 8%、10%、あるいはそれ以上の落ち込みです。ただ、館林は人口減少および高齢化が進んでいます。高齢化率は 25%を超えるかという状況になっています。

高齢化が進むことによって行政の負担は増えていき、働く人が減り税収は減るので、将来どこに財源を求めたらいいのか頭を痛めています。地元の中小企業、商店街とも落ち込んでいて、将来、税をどれだけ負担していただけるか心配です。従って優良企業を誘致して税をしっかりとしたもの、雇用をしっかりとしたもの、と、そのような方向に向いて館林も継続的に団地造成を進めています。

平成 24 年にはカルピスの北側に、ヨーグルトで世界最大企業のフランス・ダノン社が進出してきました。3 万坪位の敷地となる予定です。ダノンは館林を日本で最大の生産基地にしたい、あるいは研究所も考えてもよろしいということですし、平成 24 年以降稼働する工場では、500 人から 700 人を採用していただけるということです。

・観光事業の推進へ

また、企業誘致以外にも、館林の持っているいろいろな潜在的な力を将来的には税収に結び付けたいということで、観光地化を急いでいます。

まず、つつじヶ丘公園を平成 25 年までに年間楽しめる四季型公園にし、その一部を年寄りから子供たちまで楽しめる公園に全面改装します。すでに城沼の周囲には 1 周 5km のスーパー遊歩道が完成しました。桜も植え、10 年後には桜並木の立派な散歩道になると思います。ぜひ歩いてほしいと思います。

文福茶釜の茂林寺は、総合的な観光地化を目指して市を挙げて取り組んでいます。茂林寺に隣接している南岸 5,600 坪を買収して茂林寺沼と茂林寺の寺とを公園として整備する。茂林寺沼の対岸には従来、東武鉄道系のベルジュネという結婚式場がありました。現在は東武緑地という公園管理の会社が進出して、野鳥の森ガーデンということで芝さくら公園などを作り周辺の土地も買収しています。

市としては東武緑地と提携して茂林寺沼周辺を誘客 100 万人の大観光地とするべく進めています。5 年位かかるかと思えます。

多々良沼は自然公園として現在整備しておりまして、今後 6 年位かかるかと思えますが、中央の道路を「夕日の小路」と名付けて、整備しています。沼の浸食を防止することも含めて、将来は多々良沼 1 周 8km の散歩道となります。やはりスーパー遊歩道として整備していきます。完成した暁には今までとガラッと変わって新しい自然公園として再生されるかと思えます。

・駅西を起爆剤に市街地活性化へ

一方、中心商店街は地盤沈下が著しく、一人暮らしの老人が増え、消費する力もあまりなくなっています。中心市街地の活性化という要望もあり、市民共同で研究していますがなかなか妙案が出てきておりません。

館林駅を 21 年 12 月にリニューアルしバリアフリー化しました。特に西口を重点的に整備しています。今の東口の 2 倍位の広さになり、雨にも濡れずにタクシーに乗れる緑の駅にするということで、これまでの計画を全部見直しました。予定では平成 24 年度中に完成ということです。

西口には日清製粉、正田醤油さんがあります。日清製粉さんは記念館もありますが、創業 120 年ということで大胆な新しい計画があるということです。現在進行中の駅西の区画整理が進みますと、駅前広場が南に日清製粉、北に正田醤油と囲まれてしまいます。市の土地もありますが、正田醤油、日清製粉と協力して東武鉄道沿線で最も魅力的な駅前を作ろうと動いています。そして、ここを市街地活性化の突破口にしたいということでいろいろ策を練っています。

・農業を守る

農業の問題があります。きゅうりは日本一

です。最近はニガウリも全国一ということで、館林の食を全国に発信していきたいと考え、農業にさらに力を入れていかなければならないと思っています。

今年は、猛暑によって米の生産が大打撃を受けました。例年ですと 84%位 1 等米が取れたのですが今年は 0.1%ということで異常気象によるものです。もともと邑楽・館林は群馬のウクライナと言われた所で、食に力を入れていかなければ将来後悔するということです。1 市 5 町の町長と一緒に邑楽・館林の農業をどのようにして守っていったらよいかについて 5 月に会を発足させて動いています。

3. 地域医療・福祉の充実

市民からの要望が最も多いのは、医療と介護です。館林厚生病院は、特に小児科と産婦人科の医師不足が原因で、通院の皆さんには対処できていますが入院と手術ができません。邑楽・館林の皆さんから何とか地元で出産できる公立病院を維持してほしいとされているのですが、要望に応えられない状況です。市内に民間の産婦人科は 2 院ありますがそれも手一杯の状態です。小児科についても市内に多くの医院がありますが夕方になると窓口が閉まってしまう、夜間は厚生病院にということですが、厚生病院も手一杯で近隣の病院と提携して対処しています。

・近隣市と連携で救命病院 20 分体制

そこで、私が提案したのですが、両毛 6 市(館林市、太田市、みどり市、足利市、佐野市、古河市、羽生市)の基幹病院同士の連携の中で医療を低下させない仕組みを作りました。佐野厚生病院、足利日本赤十字病院、太田市のこれからできる総合病院、館林もそうですが何とか水準の高い医療を提供している病院が頑張っている、この連携を重視しています。

今回、足利市に栃木県側の緊急救命の大きな病院が昔の競馬場の跡地に 23 年にできることになりました。これは 24 時間対処します。さらに、太田市には群馬県側の緊急救命病院が完成します。緊急救命病院間が救急車なら 10 分位で行き来出来る。館林の厚生病院からは 20 分です。また、佐野厚生病院も 24 時間体制で受け入れてくれる。これも約 20 分で行けます。それに羽生の病院も 20 分位で行ける。

悪い悪いと言われている邑楽・館林の医療

体制ですが昔なら全く考えられなかったことです。輸送手段もしっかりしていて、ドクターヘリも入りました。

厚生病院は平成25年に現在地に新たな病院として作り変えます。1市6町の運営ということで作り変えられますが、その時には産婦人科、小児科を設ける予定です。

4. 教育の充実

教育の問題は非常に幅が広く、中身が問題であると同時に少子化に伴ってこれまで通りに学校を維持していけなくなっています。館林市大島地区を例にとりますと、今年の第四小学校(大島小学校)への入学者が13人です。昨年も10数名でした。あまりにも子供が少なく学校として成り立たなくなっている。街中の小学校も統廃合せざるを得なくなってきました。

そういう中で、重度の身体障害者のための高等学校が館林に設立されます。平成23年4月に現在ある養護学校の隣に出来ます。25年ぶりに新設され、館林地域の対象者がすべて学べるようになります。7億5千万円の費用が掛かりますが、すでに工事は着工しています。

・小・中学校、保育所に暑さ対策

それから館林市は日本一暑い街ということでもスコミに大々的に取り上げられています。ひと夏の猛暑日が41日、最高気温日本一の日が14回ありました。そんなことから、市長のところには、学校に冷房設備を設けてもらえないかという要望がありました。そこで、まだ公にはしていませんが、冷房設備を23年夏までに市内全部の幼稚園、保育所、小・中学校に設置することを決め、すでに設計委託を行っています。321台、5億4,000万円の経費になると思います。教育の問題は本当に胃が痛くなる思いのことばかりです。

5. 市民とともに歩む

地域の自治力、地域力を醸成、育んで高めていきたい、安全、介護、ネットワークも地域力を必要とします。

・地域力向上へ団塊の世代に期待

今後、団塊の世代の方々には第一線を退かれて地域に密着していく、この世代の方々の中には、高い能力、実力を持った方が多くおります。この人たちの協力をいただきながら、

地域の力を高めていきたい。市内それぞれの地域の住民の方々が従来以上に自主的な活動をしていただけるようにということで、これまでの区長制度を、自治会制度に移行しようという取り組みをしています。

現在、ある地区では区長就任の順番が決まっています。従来通りの区長制度ではなかなか新しい人がその中に入れない、これを活発化し、ガラス張りの運営にして新しい人が入って活躍できるようにということから、自治会制度にしたいということで苦慮しています。

・災害に強い街へ

昨年、館林は竜巻の被害を受けました。実はそれ以前に市内の大島地区でダウンバーストを2回経験しています。ダウンバーストとは上から落ちて来る大変大きなエネルギーなのですが、どういう訳か渡良瀬川の南側に発生するのです。幸いこれまでは被害が発生していなかった。ところが、今度は竜巻が市内の2か所で起こった。三野谷地区と成島の関東学園高校の近くです。

三つが合流して西のほうから東のほうへ幅50m、長さ6.5kmにわたって発生した。被害家屋は710軒に上りました。大型の竜巻に見舞われた経験、先に申しあげた異常な高温に曝されることから、町の中にも熱波、竜巻、ダウンバーストさらに少ないですがゲリラ豪雨、こうした災害に備えるには、行政だけの力だけではできないので市民に呼びかけて共同して取り組んでいくため、地域に防災組織やパトロール組織を整備しました。

・これからの観光資源づくり

館林のまちづくりの中で「歴史の小路事業」というのに取り組んでいます。城下町館林ということで街の中の古い、残っている文化遺産を活用して観光の名所を作る取り組みです。

建物の再現、移転など名所づくりに取り組んでいます。国なり県なりから助成を受けられないと厳しい状況です。21年度は元の清流映画館の前に三野谷の松澤さん宅の長屋門を復元しました。費用が5,000万円ほどかかり、古い家屋を移転して再現するのに大変費用がかかるのにびっくりしました。

また、下早川田町の雲龍寺に墓所のある田中正造さん関係の歴史について、「田中正造環境学習館」というものを計画しています。

3年後が没後100年になりますので財政事

情が許されるなら、これも平成 25 年には目玉政策の一つとして取り組んでいくことを考えています。

逃げ場のない暑さから市民をいかに守るかが最大の問題として、この問題を統括して取り組む部門として「地球環境課」を新たに設置して取り組んでいます。観光に関しては「花の町観光課」というのも作りました。いろいろな館林の観光を確りした観光地とするため努力しています。

その他いろいろ計画はありますが財源の壁があって難しい状況です。

☆

話があちこち飛びましたが、いずれにしても厳しい状況の中で地域が活力を失わないように、市民の皆さんがしっかり生活がしていけるように、我々行政側としてできる努力を確り傾注していきたいと日々取り組んでおります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。(文責 事務局)

やすらおか かずお

63 歳。昭和 22 年館林町生まれ。法政大学卒。谷津義男元衆議院議員秘書を経て群馬県議会議員 3 期、自由民主党群馬県議会政務調査会長として活躍。平成 19 年 4 月第 5 代館林市長に就任。

質問

＜邑楽地区では町村合併はいかがなっていますか＞

市長になった時に邑楽郡内全部の町に“人口減少、高齢化社会が進むと社会福祉関係の費用が右肩上がりで増えていく、これらに対処するには行財政のさらなる改革とともに合併をうまく活用しないと投資的な力が生まれにくい”と呼びかけたのですが、足並みが揃わないのです。端的に言いますとお互いの信頼関係、行政の壁と言いますか、合併することによって自分たちの財産を取られてしまうのではないかと、自分たちの思ったことが出来ずに、大きいところの意見が通って小さいところの意見が反映されないとか、税金が高くなるなど、いろいろなマイナス要素が噴出して纏まりませんでした。

邑楽郡は非常に豊かです。大泉町は三洋電機、千代田町はサントリー、邑楽町は日清紡さんを中心にした企業群、明和町はアドバンテストと、全町民の税金を 1 社で納めてしまうというような優秀な企業がある、館林もそこそこです。板倉が財政的にちょっと苦しいですが。

いずれにしても、自分のところで勝手に使用できる財源があるのにこれを館林に取られてしまう。これが本音ではないかと思えます。しかし、合併によるメリットもありますので引き続き根気よく提案していくことにしています。現実には病院とかごみ処理などは一緒にやっているわけですから、やれないことは無いと思っています。ただ、本格的な議論を進める前にテーブルに座らないというのが現状です。

＜館林市の実質公債比率はどのくらいですか＞

15%を超すと硬直化といわれるのですが平成 21 年度は 6.8%です。現在は低いのですが、館林は先ほど申し上げたようないろいろな事業をこれから計画していかなければならないため、今後はもっと上がらざるを得ないのです。

他の町は大変ですよ。先般大泉町の町長さんとの話の中で、税収が 1/5 に減少してしまった。今度三洋電機さんがパナソニックの傘下に入って相当失業者が出るのではないかと、そのリストラの中では雇用対策ではなくて、雇用そのものが無いのだから福祉対策として取り組んでいかなければならない。それが最も心配していることだと言っていました。

ただ、邑楽郡はまだ、北海道、東北など他の地方ほど深刻な状況ではない。大泉町やあの一帯は高いレベルの技術が集積している地域ですから条件は悪くない。努力することで道は開けると思っています。頑張ればなんとかなりますよ。例えば館林では、富士通さんが情報の集積、クラウド化を進めていて、館林富士通だけで去年は 200 億円の投資をしている。日本中の、世界の企業から情報を預かり館林に集積するというので大規模な投資をいただいています。1 か所に情報を集めて管理していく。企業が大事な情報を預けておくのです。

このような時代です。悲観的な話をすると暗くなっていくばかりですから物事を明るくとらえていかなければいけないと考えています。

<p>テクニカルコーディネーター</p> <p>建築家</p> <p>大隈 清道 (29年卒)</p> <p>〒273-0022 船橋市海神西1-1193-1-1006 電話 0474-33-6790</p>	<p>館林高等学校東京同窓会名誉会長 群馬県人会連合会会長代行・副会長 上毛倶楽部 副理事長</p> <p>鈴木 敏男 (23年卒)</p> <p>連絡先 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-55-7 ナナヨウビル 七陽商事株式会社 電話 03-3663-7740</p>
<p>財団法人 神津牧場</p> <p>岩崎 充利 (29年卒)</p> <p>自宅 〒177-0051 東京都練馬区関町北4-21-10 電話 03-3594-2808</p>	<p>葭葉法律事務所</p> <p>辯護士 葭葉 昌司 (27年卒)</p> <p>〒106-0031 東京都港区西麻布3-21-20 葭町コーポ903号室 電話 03-6447-0446 FAX 03-3403-0675</p>
<p>株式会社 リアルエスピースタジオ</p> <p>代表取締役 宇治川 譲 (29年卒)</p> <p>〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨1-19-18 ヲビノビル 電話 03-5907-5812 (代) FAX 03-5907-5814 http://www.real-sp.co.jp</p>	<p>学校法人 関西外国語大学 関西外国語大学・大学院 関西外国語大学短期大学部</p> <p>教授 内田 信也 (30年卒)</p> <p>自宅 〒177-0044 東京都練馬区上石神井1-3-16 電話 03-3594-1173</p>
<p>相澤・藤井法律事務所</p> <p>辯護士 相澤 建志 (36年卒)</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22 電話 03-3574-0880 (代) FAX 03-3572-0028 E-mail : aizawa-1-o@nifty.com</p>	<p>株式会社 サービス経済研究所 グローバルアライアンスコンサルタント</p> <p>代表取締役 山岸 正 (36年卒)</p> <p>〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-14-12 本多ビル 電話 03-6912-7221 FAX 03-6912-7223 E-mail : hhe01366@nifty.com</p>
<p>小林公認会計士事務所</p> <p>公認会計士・税理士</p> <p>小林 功一 (54年卒)</p> <p>東京事務所 〒123-0851 東京都足立区梅田8-5-6 電話 03-3880-2187 FAX 03-3880-2138 群馬事務所 群馬県邑楽郡邑楽町中野3013-14 電話・FAX 0276-88-1844</p>	<p>株式会社 キャノン美容室</p> <p>代表取締役 浜田 邦夫 (39年卒)</p> <p>〒171-0031 東京都豊島区目白3-4-11 電話 03-3953-0951</p>

二科展への挑戦



昭和 30 年卒 江原 二三男

35mm カメラを買いました

写真との出会いは、昭和 37 年 4 月、在籍していた会社の先輩に誘われて 35mm カメラ（アサヒペンタックス SV）を購入したことでした。もともと絵画が好きでしたが、描くことがあまり得意でなかったものですから、カメラを使って表現できることに関心が行きました。そして、証券会社に在籍していた関係で、業界団体の東京証券協和会に設けられていた写真部に昭和 38 年 4 月に入部、本格的に写真撮影を始めました。

協和会写真部は、撮影技術の勉強、作品の発表、先生の指導を受ける宿泊付撮影旅行、さらに講師による月 1 回の講評・審査会を実施していました。また、年 1 回開催される証券業界の文化祭では一般公募の写真コンテストを行い表彰するなど、活発な活動を行っていました。東京証券協和会は平成 13 年 3 月に解散しましたが、写真部はその後も容を変えて有志により活動を続けて今日に至っています。

私が入部した当時、例会・審査指導をしていた講師は、日本大学芸術学部写真学科講師・土田作氏でした。土田先生が九州産業大学芸術学部教授として赴任することになって、その後任は、プロの写真家ながらアマチュア指導に定評があり写真界の信頼もあり、

技術指導も優れている故松田二三男氏にお願いしました。以来、松田先生には三十有余年指導を受けてきました。

トップ女優さんをモデルに撮影

企業人として現役だったころの活動では、富士写真フィルム(株)秘書室長をされていた夏目通之助氏の紹介で、女優の久我美子さんを紹介していただき写真のモデルになっていただきました。その縁で、にんじんクラブを構成していた岸恵子さん、有馬稲子さん両女優にも写真のモデルになってもらったことがありました。今でも忘れられない昔懐かしい思い出です。

松田先生の二科展との関係でいうと、二科展写真部のスタートは、二科展絵画部の幹事であった画家東郷青児氏、宮本岳彦氏などから、松田先生、写真家故林忠彦氏、写真家故秋山庄太郎氏等、当時写真界で活躍中の第一人者の方々に写真部創設の話が持ち込まれたとのことでありました。しかし、松田先生は、写真芸術（フォトアート）は商業主義に重きを置くのではなく、技術探究、作画方法の研究に専念し、資質の向上を図っていくことを主張していたようで、二科展には係らず国内の写真家を動かし、結果として日本写真作家協会を創り、初代の会長に就任したとのことです。



納入のお願い.....

平成 23 年度（平成 22 年 10 月～平成 23 年 9 月）の年会費 3,000 円未納の方は、①氏名、②卒業年
③住所・TEL、を明記していただき下記口座にご送金いただければ幸甚です。

・郵便振替 加入者名 館高東京同窓会

口座記号番号 00160-8-773981

しかし、松田先生も多忙で、特に米国イーストマンコダック社の顧問をしておりました関係で海外に行く機会が多くありました。先生が海外に行く折は、協和会写真部の例会指導、審査を二科展写真部に所属していた秋山先生、林先生に自ら依頼していましたことから、秋山先生や林先生にも何回か指導を受けました。その例会の時に先生方から二科展の説明をいろいろと受けました。その席で何人かの部員に二科展への出品のお誘いもありました。

自然をテーマに2年連続入選

その後も松田先生の協和会写真部への例会指導が続きましたが、高齢となり病に倒れ、直弟子の故田原豊氏に声がかかり、田原先生に例会指導が引き継がれました。田原先生は二科展のメンバーであり、大変熱心な方で二科展への出品を勧められました。それから二年有余指導を受けましたが病に倒れ、急逝されました。田原先生入院に際し二科展理事の須賀一氏を紹介され、現在は須賀先生に例会・審査指導をやってもらっています。先生の指導は写真への造詣が深く、熱心に手取り足取りの指導で皆さんに大変好評です。須賀先生も前任者と同様、二科展の出品を例会作品の中から選び予備審査などにもっていかれることもありました。

こうしたことから、私も故田原先生や須賀先生の縁で二科展へ挑戦をしました。一時中断していましたが平成17年から再度出品するようになりました。そして平成19年に、



平成22年写真展出品作品

睡蓮の花を対象に撮影した「迎夏」で初入選を果たしました。翌20年には、大井川ダム湖の水面の輝きを撮った「水の造形」で連続入選を果たすことが出来ました。2年連続入選というのはなかなか難しいことなので喜んでおります。

☆

私は年齢70歳を越しましたが写真への情熱は衰えておりません。二科展の幹事の方との撮影旅行を楽しみ、また世田谷区には60歳以上の人を対象にした写真クラブがあり、そこでも活動を続けています。風景や草木・花など自然と親しみ、これらを撮影することで健康に過ごせます。今後ともより一層の努力と技術向上に邁進したいと思っています。

えはら ふみお 74歳。邑楽郡旧千江田村(現明和町)千津井の出身。東京都世田谷区在住。法政大学卒。元日産証券(株)勤務。営業マンとして産業界トップの人々と長年交流を図る。館高東京同窓会元副会長。

観桜懇親会開催のお知らせ

館高東京同窓会は、会員諸氏との懇親・交流を目的に下記次第による観桜懇親会を開催します。会場のホテル グランドパレスは、皇居北の丸公園、靖国神社に近く、中でも皇居お堀端の千鳥ヶ淵の散策には大変な人出がある都内有数の桜の名所まで数分です。この機会に観桜散策を試みてはいかがでしょうか。

春のひと時、ぜひ先輩、同期生、後輩入り混じっての懇親会にお気軽にご参加下さい。

日 時 平成23年4月2日(土) 午前11時～

会 場 ホテル グランドパレス (1F レストラン カトレア)
東京都千代田区飯田橋1-1-1 TEL 03-3264-2401

会 費 4,000円(当日受付)

申込先 館高東京同窓会事務局 〒343-0021 越谷市大林74-5 谷田部 和之方
TEL 048-974-6012 FAX 048-974-6680

申込締切 平成23年3月21日

ありとあらゆる自然、気候、風景が凝縮された

南米チリでの生活



昭和 57 年卒 神谷 哲也

大学卒業後商社に勤務し海外転勤は当たり前と思っていても、インドネシア、シンガポール、そして今回のチリと3度目の海外駐在。会社生活の半分はこれで海外生活になってしまおうのでは？と危惧している次第。言語も、インドネシア語、中国語、スペイン語と各々違う言語となり頭の中は大混乱。

皆様、チリと言いますと何を思い浮かべますか？最近鉱山事故救出劇でチリの知名度は一気に上昇しましたが、それまではチリと言われても中々イメージが湧かなかったのではないのでしょうか？

身近なところでは、当社も日本向けに輸出しているチリワインやサーモンの切り身、モアイ像で有名なイースター島はチリ領の島。また、悪いイメージでは、青森住宅公社での業務横領事件、所謂「アニータさん事件」のアニータさんはチリ人。ぱっと思い浮かばない事ばかり。

旅行ガイドブックを見ても、チリの記事はほんの片隅に少し出ているだけ。確かに、当地に駐在するまでは、小生も同様に知見は殆どあり



写真1 アタカマ砂漠にて

ませんでした。

日系移民の多いブラジルやペルーは日本でも馴染みが深いですが、チリの印象は本当に薄く、これを機会に皆様にチリのご紹介をさせて頂きたく思います。

チリは南北に約 4,300 km、東西の幅が約 180 km と、地球上、他に例を見ない細長く特殊な国土を有する国であり、チリ人に言わせると「神が天地創造の最後の日に余ったパーツを寄せ集めて作った国」と評するほど、ありとあらゆる自然、気候、そして風景が凝縮された国です。言語はスペイン語が中心であり、英語は殆ど通じません。

今回チリを紹介するにあたっては、北部、真ん中に位置する首都であるサンティアゴ、南部と分けて紹介させて頂きます。本来であればもっと細かく分けた方が真の姿を判って頂けるのですが、紙面の都合でとてもではありませんが書ききれません。それ程、様々な顔を持っている国なのです。

1. 世界一雨の少ない北部

世界一の生産量を誇る銅鉱山や今話題の次世代電池原料であるリチウムが多数存在し、鉱山救出劇があった場所。また、アタカマ砂漠、アタカマ塩湖も近くにあり、世界一雨の少ない地域。中東より雨が少ない事ご存じでしたか？年間降水量は 20mm とほぼゼロです。元々はペルーとボリビアの領地でしたが戦争で奪い取りました。先人がここまで先を読んでいたら判りませんが、もし奪い取っていなければ、経済面でペルーとボリビアにもっと遅れをとっていたでしょう。それ

程資源が豊富な地域です。

実は現在の小生の活躍の場もこの地域にあります。アタカマ砂漠の真ん中で、土に含まれている、医療に欠かせない「ヨード」、肥料や爆薬原料となる「硝酸」のプロジェクトを立ち上げます。写真1はこれから工事を始める予定地ですが、見てお分かりの通り、ネオン一つない完全なる砂漠の真ん中です(衣服が乱れているのは風のせい。それ程風が強いのです)。星も今まで見たことが無い程の満天の星です。

既に工事は始まっており、偶に工事キャンプに泊まり星を見ながらラム(お酒です)で一献。五臓六腑に滲み渡り、思わず「生きていて良かったー」。それ位空気が澄んでいるのです。

住人の多くはインディオ系であり、人が住むには非常に厳しい環境ですが、鉱山での一攫千金を目指し、ゴールドラッシュ改め銅ラッシュの地域と言っても過言ではありません。

2. サンティアゴのある中部

中部と一概に言っても非常に広範囲ですが、首都であるサンティアゴを中心に記載致します。

アンデスに囲まれた盆地に所在している為に正直言って空気は最悪です。銅バブルで車も増えており、金曜日は完全にスモッグに覆われてしまいます。その代わりに月曜日の朝は最高に空気が澄んでおり、アンデスの山々もくっきりと見えます。写真2に春先のアンデスの写真を添付致しましたが、雪で覆われたアンデスと白い花のコントラストが非常に綺麗です。残念



写真2 春先のアンデス山脈



写真3 魚介類のスープ



写真4 南部にある氷河

ながらこのような綺麗な風景も月曜日だけ。

食事はスペイン料理が中心。魚介類に肉に、食材の豊富なこの地域はスペイン料理に正にうってつけの地域です。自然の食材に少し手を加えるだけのスペイン料理は、我々日本人の口にもばっちり合い、ワインを片手に舌鼓。思わずサルー(スペイン語で乾杯の意味)。日本に帰国の際には成人病の塊にならないか不安ですが止められません(写真3は当地スペイン料理を代表する魚介類のスープ。具沢山で味も濃厚で最高!)

所謂スペイン系の人々が多く住むサンティアゴの問題は自動車の運転。今まで世界各地様々な国を訪問しましたが、この国は最悪の運転マナーであると言っても過言ではありません。横断歩道であろうが何であろうが、車はトップスピードで突進してきます。

最高の運転マナーをもった日本人である小生が車を運転し横断歩道で止まっていると、後

ろからクラクションの嵐。これだけは改善してほしいものです。この国ほどクラクションの機能を最大限に発揮する国は無いでしょう。

問題も色々ありますが、食事も美味しく、夏にはゴルフにビーチ、冬にはスキーと慣れてしまえば住めば都です。海にも山にも一時間ほどで着いてしまいますので。平日は仕事、週末は



写真5 サンティアゴにあるモネダ宮殿（大統領府）



写真6 自宅から見たアンデスの風景



写真7 銅の積出港・アントファガスタの町

レジャーと生活を楽しんでおります。

3. 南極ツアーの出発地—南部

チリから飛行機で南極旅行が出来ることを知ってありましたか？ 最南端にある空軍基地から南極旅行が出来るのです。非常に高額ですが南極に数日泊まるツアーが出ております。

北部は全く雨が降りませんが、南部は氷河もある多雨の地域。マプチェ族と言う先住民には「蒙古斑」があり、我々日本人と同じDNAを持っております。ベーリング海から北米大陸経由当地に渡ってきたと言われております。何千キロ？ 気が遠くなります。現代は飛行機に乗れば24時間ほどで日本から当地に着いてしまいますが、先人達は旅の途中で世代が変わる位時間を掛けて当地に着いたのでは思う次第。飛行機で24時間の現代でも十分遠く感じますが。

又、南部は海外からの旅行者が最も訪れる地域であり、夏になるこれからが旅行シーズン。冬場は気候が厳し過ぎて観光で訪れる人は殆どおりません（写真4は南部にある氷河の写真です）。

☆

南北に長いチリを大分端折って説明してしまいましたが、自然遺産は豊富な国であり、是非とも一度訪問してみてください。ペルーの遺跡見学ツアーにチリを付ければ直ぐに到着です。小生が当地にいる間は館高OBの方は大歓迎致します。

最後に鉱山救出劇でもサッカーワールドカップでも良く聞いたチリを称賛する合言葉で。

チ・チ・チ・レ・レ・レ・ビバチレ！！

（スペイン語でチリの事はチレと呼びます）

かみや てつや

46歳。群馬県太田市高林南町、太田市立南中学校出身。昭和57年3月普通科卒。早稲田大学商学部卒業、豊田通商(株)エネルギー・化学品本部勤務。平成22年8月より現地法人「豊田通商チリ」にて資源開発プロジェクトに従事。



元気で～すー会員便り



増田 甚平 昭和 20 年 3 月卒 (邑楽郡板倉町旧伊奈良村岩田出身) 千葉県流山市在住

仕事 無し (元農林水産省関東農政局長)

趣味 音楽鑑賞、俳句

音楽の方は、美空ひばりからベートーベンまで。日本京歌祭はじめ、各地の京歌祭に参加、「天は東北」等猛唱しております (千葉京歌振興会会長)。俳句は「ろんど」同人。“梅薫るいまは追はるるものもなく”“遊行期を平成に生き柿若葉”“祖父読みし学庸論孟虫干す”等。



神谷 宗作 昭和 35 年 3 月卒 (邑楽郡邑楽町旧中野村出身) 埼玉県越谷市在住

仕事 建設設備会社等の非常勤役員

趣味 釣り

越谷市は大小の河川に恵まれ、近くを流れる元荒川流域は春先絶好の釣り場となり、大勢の太公望で賑わい環境も良好です。出かけてみてください。



栗原 勝雄 昭和 38 年 3 月卒 (邑楽郡板倉町旧西谷田村出身) 東京都府中市在住

仕事 アルバイト (元東京消防庁勤務)

趣味 旅行、テニス、ウォーキング、読書

東京消防庁を 7 年前に退職して立川市内のフェローホームズという老人ホームで宿直勤務の他、第一種衛生管理者として職場で安全衛生委員会のスタッフとして活動している。月 2 回位 JR 東日本の「駅からハイキング」というイベントに参加しながらウォーキングを楽しんでいます。

和気あいのコンペ

ゴルフ部会 (中村茂八郎部会長) は、恒例の秋のコンペ (第 29 回) を平成 22 年 11 月 8 日、茨城ゴルフクラブにて開催した。

部会員登録者は 48 名であるが、所属クラブの大会との関係等の事情から参加者は 11 名と少なかった。名門コースの良く整備されたコンディションの中和気あいの雰囲気ながら存分のプレイが展開された。

中でも、大正 9 年生まれ 90 歳の新里武男さんは、スタート前

のストレッチ体操でその身体の若々しさを披露、無言のうちにも後輩達を叱咤されていたのが印象深かった。毎日 30 分のストレッチ体操を欠かしたことがなく、これが 90 歳になっても都心からゴルフ場までマイカーを運転してきてプレイを楽しめる所以だと言われた。

また、平成 22 年 5 月 12 日に板倉ゴルフ場にて開催された「第 11 回同窓会懇親ゴルフ大会」には、東京同窓会から 22 名が参加、中村茂八郎 (25 年卒) が第 5 位、谷田部和之 (35 年卒) が

第 6 位に入賞した。

〈第 29 回コンペ成績〉

- 優勝 渋井 恒夫 (30 年卒)
- 準優勝 中村茂八郎 (25 年卒)
- 第 3 位 荒井 昭 (27 年卒)
- 第 4 位 浜田 邦夫 (39 年卒)
- 第 5 位 車崎 光知 (27 年卒)



29 回コンペ参加者 (下) とストレッチを披露する新里さん (上)

第 12 回

同窓会懇親ゴルフ大会

期日 平成 23 年 5 月 11 日 (水)

会場 板倉ゴルフ場

参加希望者は下記まで連絡ください
群馬県立館林高等学校同窓会事務局
TEL 0276-72-4307





元気で～すー会員便り



蓮見 重義 昭和 28 年 3 月卒（邑楽郡板倉町旧伊奈良村出身）千葉県いすみ市在住
 仕 事 元厚生省、環境庁（当時）、埼玉県庁に勤務
 趣 味 陶芸
 54 歳で退職。唐津焼を勉強。現在地に登窯を築いて、作陶に専念し、年 2～3 回の個展を開き楽しんでおります。



内田 茂 昭和 43 年 3 月卒（館林市旧郷谷村当郷出身）埼玉県久喜市在住
 仕 事 国際自動車(株)タクシー乗務（都内勤務）
 趣 味 書道を通して漢詩等の勉強に日々務めております
 タクシー乗務では一期一会の気持ちで接し有意義な時間です（宮沢りえ、鶴瓶）。日韓共催サッカーWカップ時もVIPの運転で国際親善に貢献。



原 孝治 昭和 52 年 3 月卒（館林市旧多々良村日向出身）千葉県柏市在住
 仕 事 独立法人農林水産消費技術センター（農水省関係の独立行政法人）に必要な各種調達や資産管理関係の事務を担当
 趣 味 ドライブ、スキー
 仕事場は、さいたま市にあるさいたま新都心駅から 5 分程度です。お近くにお出かけの際は、お立ち寄りください。



大塚 秀吉 昭和 35 年 3 月卒（館林市旧三野谷村出身）千葉県柏市在住
 仕 事 民事調停委員（元三井信託銀行勤務）
 趣 味 野菜作り（近所の農家から畑を借りて）、ゴルフ
 定年退職と同時に、柏市を「日本一きれいな街にする」目的で、ポイ捨てごみの収集を始めました。今年で 10 年目を迎えます。農耕も楽しんでいきます。



五十嵐 圭 平成 5 年 3 月卒（館林市旧多々良村出身）千葉県浦安市在住
 仕 事 ホテル グランドパレス勤務
 趣 味 料理、旅行、映画鑑賞
 私は、当社の料飲部食堂課に在籍しており、以前に取得したソムリエの資格を活かした接客と共に、現在はマネージメントの勉強に取り組んでおります。



吉澤 康弘 昭和 31 年 3 月卒（館林市旧館林町下町西出身）さいたま市西区在住
 仕 事 元大日本製菓(株)勤務
 大学卒業後、大日本製菓(株)（現大日本住友製菓(株)）及びその関連企業等で 40 年勤め、本年 5 月で 74 歳を迎えます。65 歳の定年後、地域の男声合唱団で歌って頑張っています（因みに当合唱団の平均年齢は 71 歳、団員数 23 名で、昨年第 10 回の定期演奏会を開催しております）。



金子 和司 昭和 40 年 3 月卒（邑楽郡千代田町旧永楽村出身）東京都荒川区在住
 （太田 瑠声）仕 事 民謡歌手（日本コロムビアレコード専属）、一般財団法人日本郷土民謡協会理事、名誉教授、民謡瑠声会を主宰
 民謡生活 45 年。1 月 3 日、邑楽郡千代田町赤岩・安楽寺における新年の集いで今年の第一声を発し、津軽三味線を伴奏。民謡の発声法は腹式呼吸でお腹いっぱい声を発声し、必ず身動きせず姿勢を正しより遠くへ届く声を発するので、健康になれ、またストレス解消に最高です。